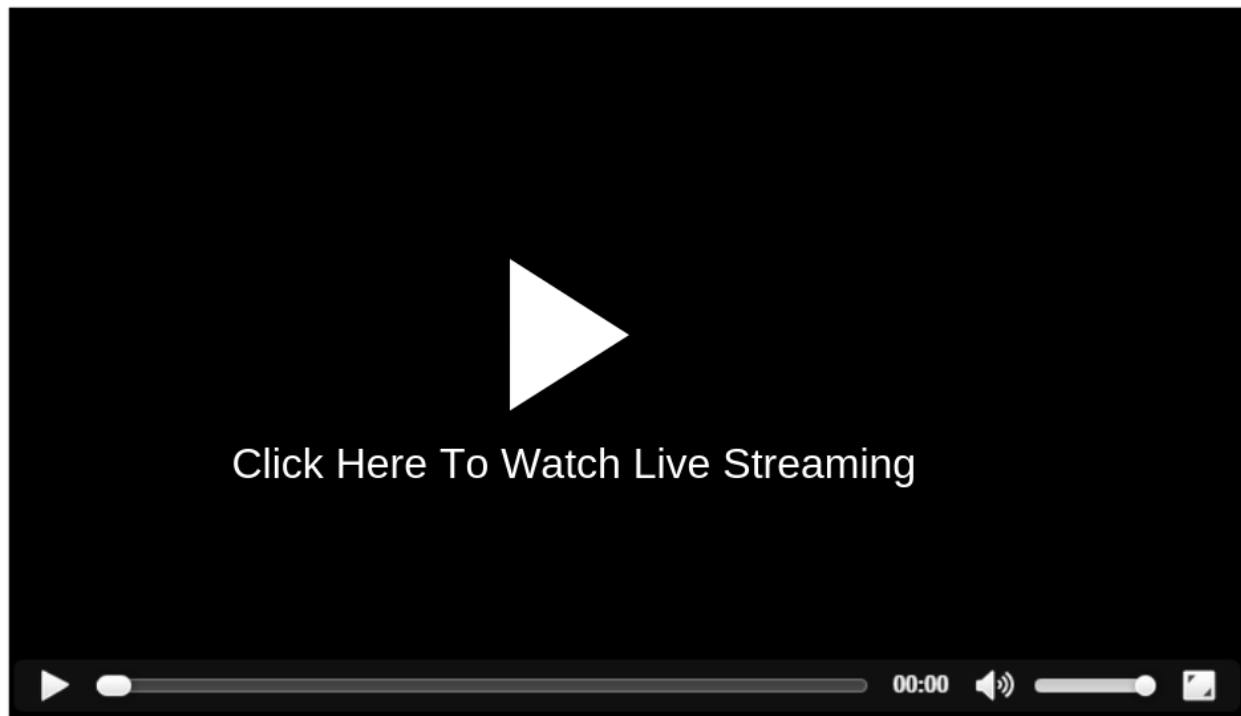


## (FUJI TV) 根岸Sテレビ放送動画生中継視聴無料ライブ インスター2022年1月30日



論より証拠。先週のアメリカJCCでは、『三ツ星穴馬』の記事で紹介していたマイネルファンロン(11人気)が2着に激走しました！

マイネルファンロンは過去5年のアメリカJCCで馬券に絡んだ15頭のうち、半数を超える9頭が該当していた「美浦ウッド」調教馬。最終追いでラスト1ハロン11秒5と鋭い伸びを披露しており、調整の難しい冬場でも絶好調の1頭だったのをご存知でしたか？

今週の根岸SもアメリカJCCと同じく、毎年該当馬がバンバン来ている好走馬の法則にお任せください！

過去5年の1～3着馬15頭の調整パターンを徹底的に調べたところ、驚くべきことに12頭が最終追いを「栗東坂路で調整された関西馬」だったのは注目でしょう。

そのうち5頭は「ラスト1ハロン12秒5より速い時計」を出しており、この中には昨年10番人気で2着に激走したワンダーリーデルなどの穴馬も含まれています。

2022年の競馬GI予想も競馬AIにお任せだ！2021年GIシリーズは安田記念で3連複8,860円を○◎△、スプリンターズステークスの3連複9,050円を△◎▲、続く秋華賞も3連複4,190円を△△◎でクリーンヒットし、さらにGI以外でも京都2歳ステークスで3連複2万700円の万馬券を△▲◎でズバリ大的中など絶好調だった競馬予想AI『YUMA』。この調子で2022年もGI全レースはもちろん、GII、GIIIも含めて休まず毎週土日の重賞予想をスポナビアプリの読者だけにお届けします。引き続き今年も進化の歩みを加速せるAI予想に、ぜひご期待ください！

先週の東海ステークスは『VUMA』が見事にやってくれました！1着スワーヴアラミス、2着オーヴェルニュ、3着ブルベアイリーデを▲○○の本線の中。3連複(5)(11)(13)4,490円を筆頭に、ワイド(5)(11)840円、(5)(13)1,270円、(11)(13)520円と、推奨馬券を完全的中させてくれたのだ。これはスゴイ!!

【的中】競馬AIがAJCC、東海Sを大予想 厳選ワイド3点&3連複10点で勝負！

※リンク先は外部サイトの場合があります

年明けの東西金杯ダブル的中以降、日経平均株価同様にやや湿りがちの『VUMA』だったが、これで再び上昇気流に乗ったことは間違いなし。2週続けての大当たりへ、日曜に行われる東京ダート1400mの根岸ステークス、中京芝1200mのシルクロードステークスの推奨馬&買い目も期待感でいっぱいです。ぜひとも要チェック！

突然ですが競馬ではコースによって、『ジョッキーの得手不得手』が結果に大きく影響します。

例えば先日の日経新春杯では、現在8戦続けて連対中！驚異の馬券率を誇る逆転候補の記事で紹介したヨーホーレイク(3人気)が勝利。騎乗した川田騎手は中京芝2200mで複勝率7割弱という、圧倒的な成績を残していたのをご存知ですか？

先週のアメリカJCCでも、『中山芝2200m』だから狙える伏兵の記事で紹介した横山武騎手に導かれ、ボッケリーニ(4人気)が3着に入りました。

根岸ステークス(G3)も、東京ダ1400mを得意とする隠れコース巧者に注目。この舞台で穴馬券を連発しているのが『岩田康騎手』です！

優勝馬にはフェブラリーSへの優先出走権が与えられるレースで、過去10年間だけでも一昨年のもズアスコット、18年のノンコノユメ、16年のモーニンがこのレースとフェブラリーSを連覇するなど関連性が高いことでも知られるレースだ。

◎タガノビューティーはリステッドレースのオアシスS、そして今回と同じ東京競馬場1400mコースの櫻S優勝馬。新馬、プラタナス賞を連勝し、3歳春はヒヤシンスS2着、青竜S3着とダート馬にとってのエリートコースを歩み、そして堅実な成績を残してきた。武器は強烈な末脚。前々走の武蔵野Sでは1番枠が仇になり、前走は58キロの別定斤量と大外枠に泣かされた格好になったが、芝のスタートが得意ではないこの馬にとっては厳しいレースだった。東京コース1400mは3戦して2勝2着1回と得意にしているコース。乗り替わった津村騎手の手腕にも期待したい。

○オメガレインボーはアハルテケS優勝馬。条件馬時代はマイル以上の距離で先行力を活かすような競馬をしていたが、昨秋の武蔵野Sから追い込む競馬を試み、同レース3着のちカペラS3着。初のスプリント戦が芝スタートで、しかもモズスーパーフレアが作るペースということで前半は置かれてしまったが、3~4角で差を詰め最後は内ラチ沿いから伸びてきた。もうワンパンチ欲しい印象もあるが、前走で厳しい競馬をしたことがプラスになりそうだ。

さすがに本命にはできなかったが南関東から参戦の▲モジアナフレイバーのレースぶりにも注目したい。19年東京大賞典ではオメガパフューム、ノンコノユメに次ぐ3着で、この時は4着ゴールドドリームに先着を果たしている。東京ダービー4着馬で、勝島王冠2連覇という中距離のイメージだ

が、盛岡競馬場の南部杯も3着。母ナスケンアイリスはセイウンコウセイの半姉という血統で、一昨年はフェブラリーSに挑戦して6着。この時は芝スタートなど同情すべき点が多くあり、それでも悪くないレース内容だった。馬券の仲間には加えておきたい。

【中間調整】昨年は5月のかしわ記念で僅差2着、10月の南部杯で3着。そして11月の武蔵野Sでは早めに抜け出す正攻法で待望の重賞初制覇と、本格化著しい。その後12月の大レースは見送り、得意の東京開幕まで待機。昨年は8着に終わったフェブラリーSで結果を出すべく、この根岸Sから始動する。12月25日に栗東へ戻っており、28日坂路14-14で初時計。年明けから負荷を強められ、坂路とコース併用で心肺機能と気持ちの両面をブラッシュアップしてきた。いつも通りのパターンで、1週間前となる1月19日に調整パートナーの鮫島良騎手を背にCWコースでハード追いを敢行。序盤からある程度飛ばしたが、直線でも勢いは鈍らず。馬場を大きく使って5F65秒4-3F37秒5（一杯）と、自己ベストの数字を叩き出した。

先週の東海Sを勝った7歳馬スワーヴアラミスは、マーチS、エルムSに次ぐ3年連続の重賞勝ちを記録し、成長力のあるハーツクライ産駒らしさを見せている。後肢の緩さや気難しさが解消し、心身とも充実期に入ったということだが、今年に入って中山金杯も7歳馬が勝っていた。

ロードカナロア産駒のレッドガランだが、当初予定していた京都金杯を賞金不足で断念、これまでに3戦未勝利の2000米で重賞初勝利という結果で、つけた着差の2馬身半は、この馬の今後を明るくしてくれた。いかにも遅咲きという馬たちだが、新しい年に入ってから古馬の重賞では、年長馬、7歳、8歳といった馬たちの出足が目立っている。年が明けるとひとつ年齢を加えるので、それだけでレースの印象がガラリ変化したように感じる。

今週の根岸S、シルクロードSにも、7歳以上の年長馬の名前が並んでいる。いずれもがなんらかの事情で出世が遅れていたが、もう少し可能性がありそうという馬たちで、試金石という意味あいでも出走してくる。根岸Sの先にはフェブラリーS、シルクロードSの先には高松宮記念があり、このGIタイトルを目標にここで戦うと言っていい。

根岸Sに出るソリストサンダーは、2歳の秋に骨折して一年3カ月の休養があり、4歳時にも約半年の休みがあって7歳と言っても活気は十分にある。前走、武蔵野Sで重賞初制覇したばかり。その一年前にもこのレースで2着に入っており、ここは1400米で少し短かいが、左回りで長い直線なので決め手に徹する競馬が出来ればチャンスはありそう。普段は気性面で幼さを見せるそうだが、レースに行くとい生懸命走るので惨敗があまりないというのがいい。

同じ7歳のエアアルマスは、前走が初の6ハロン戦で、好位から終い脚を使って3着と、これまでとは異なるレースで脚質転換をはかっていた。昨年のフェブラリーS5着の地力があり、7ハロンの根岸Sで楽しみが大きいと期待してもおかしくない。

ひとつ下の6歳馬、ヘリオス、オメガレインボーなど短かいところを主戦場とする有力馬が初タイトルをめざしているが、年長馬たちがどう戦うかは大きな見所だ。

また、シルクロードSにも、7歳以上が多数出走している。こちらは、よりスピードが求められるので、ハンデが56キロと手頃なタイセイアベニールの終いの脚に期待したいが、それより年齢が下で、父母ともに6FのGIを勝っているカレンモエ、重賞を3勝し、昨年のスプリンターズS4着のメイケイエールの牝馬2頭に、前走6F戦で4角11番手から豪快に追い込んで勝ったナランフレグなどが有力馬として考えておきたい。